

目 次

巻頭言 米川元樹

各部門報告

主要論文 (1999 年)

- ・ New technique of leukocytapheresis by the use of nonwoven polyester fiber filter for inflammatory bowel disease. Kawamura A, et al. Therapeutic Apheresis 3(4): 334-337, 1999.
- ・ 血液浄化療法による重症肝不全の治療 川村明夫 Frontiers in Gastroenterology 4(4): 401-408, 1999.
- ・ EDA(+)フィブロネクチンの選択的吸着材の開発 . 米川元樹 , 他 . 人工臓器 28(1): 118-122, 1999.
- ・ ブラッドアクセスインターベンション治療における血管内超音波エコー法の応用 . 久木田和丘 , 他 . 人工臓器 28(1): 145-147, 1999.
- ・ Glutamine-induced heme oxygenase-1 protects intestines and hearts from warm ischemic injury. Tamaki T, et al. Transplant Proc 31: 1018-1019, 1999.
- ・ Impaired recoloration of a discordant liver xenograft in the guinea pig-to-rat combination. Tanaka M, et al. Transplant 68(2): 304-307, 1999.
- ・ 腎不全を併発し悪性腫瘍による高 Ca 血症を呈した 4 症例に行った低 Ca 透析 . 増子佳弘 , 他 . 透析会誌 32(9): 1255-1258, 1999.
- ・ 血液疾患における輸血の問題点 . 笠井正晴 . 第 7 回赤十字血液シンポジウム論文集 , p.53-57, 1999.
- ・ 造血幹細胞移植療法の実際 - 無菌室の中で何が行われているのか 小川貴史 , 他 . 内科 84(3): 499-502, 1999.
- ・ 新 3 剤併用療法 1 週間法と 2 週間法の除菌効果の比較 . 中川 学 , 他 . 日本臨床 57(1): 144-147, 1999.
- ・ 血液透析患者に合併した褐色細胞腫摘出術の 1 例 . 中尾康夫 , 他 . 腎と透析 別冊 腎不全外科 , p.75-77, 1999.

学会発表

国際学会発表 (1999 年)

全国学会発表 (平成 11 年)

地方会発表 (平成 11 年)

座長

発表論文

邦文（平成 11 年）

英文（1999 年）

院内講演会報告

編集後記

笠井正晴

巻頭言

脱抗生物質

(医)北榆会 札幌北榆病院 院長 米川元樹

地球上で最も多い病気は感染症である。特に小児と老人では疾患の中に占める割合が高い。人類誕生以来、戦争や事故などの外傷を除くと死因のトップは感染症だろう。細菌やウイルスなどの微生物との戦いでは人類は負け続けてきた。ペストやコレラの大流行により町が廃墟と化すこともしばしばあり、結核は不治の病として恐れられてきた。19世紀の中頃、コッホやパストゥールが炭疽菌を発見して、多くの微生物が病原体として認識されるようになったが、当時の治療法は安静や隔離で自然治癒を期待する以外になかった。細菌感染症の治療を一変したのは1928年フレミングによるペニシリンの発見である。それは肺炎や膿胸を引き起こす肺炎球菌やブドウ球菌に効果があるだけでなく、破傷風やガス壊疽を引き起こす嫌気性菌にも有効で、魔法の薬といわれた。ペニシリンは終戦後にアメリカからわが国に輸入されたと思いこんでいる人も多いが、実はわが国でも太平洋戦争の末期に陸軍軍医学校を中心に当時の一流の科学者が集まってペニシリンを研究し、終戦時には既に実用の域に達していたのである。潜水艦でドイツから運ばれてきた一冊の医学雑誌が研究のきっかけであったといわれ、それは青カビにちなんで碧素と呼ばれていた¹⁾。何とも生えているカビが目に見えてくるような名前であり、カタカナ文化の今日ではむしろ新鮮な響きさえする。その後、次々に新しい抗生物質が発見され、抗生物質を中心とした治療が確立されたおかげで、結核をはじめ細菌感染で死亡する人は激減した。確かに抗生物質の威力には目を見張るものがあり、それにより一命を取り留めた患者数は計り知れない。抗生物質は食糧と同様、平均寿命の上昇に最も貢献したものの一つで、人類はその恩恵に浴している。しかし、一方で製薬会社の抗生物質開発競争も華々しく、医師は製薬会社の口車に乗って新しい抗生物質に飛びついていった。いつしか、細菌感染症で死亡したり、抗生物質が効かないことが不思議な現象にうつるほど、人間は人類誕生以来初めて細菌との戦いに勝ち、細菌を制圧ないしはコントロールできると考えるようになった。しかし、細菌は次々と姿を変えて耐性菌として再度人類に挑戦してきた。細菌の逆襲である。もはや今までの抗生物質は効かない。新たな抗生物質の開発が急がれ、次々と新抗生物質が臨床の現場に投入されるようになった。しかし、新しい抗生物質の開発には最低10年以上を要し、市場に投入しても研究費を回収できるようになる前に耐性菌が出現するに及んで、今や製薬会社は抗生物質開発意欲を失いつつあるように見える。さらに、米国のFDAが新たな抗生物質許可の条件として、耐性菌の発生頻度のデータ提出を義務づける案を提出し、これが開発意欲低下に拍車をかけている。一方、耐性菌の出現は抗生物質の野放図な投与にあるとの反省から、10年くらい前から新しい世代の抗生物質の使用を制限する投与基準がつくられるようになり、耐性菌の出現ラッシュという最悪の事態は回避しつ

つある。しかし、その出現スピードは鈍化したものの、耐性菌は日常的に存在し、最新の抗生物質投与にも関わらず依然として感染症で多くの患者の命が奪われているのが現状である。一時的に細菌との戦いを優勢に導いたと思ったのは幻想であった。人類の傲りに対する警鐘と受け止めるべきであろう。

感染症に至るか否かは、人間の生体防御と細菌やウィルスの病原性のどちらが勝っているかという非常に単純な結果である。守る側の生体防御システムの能力は年齢や全身状態によって大きく異なり、一方攻める側の病原性も同様ではなく、両者の能力は共に可変因子である。生体側が最も殺菌や貧食作用を発揮するのは微生物が組織内すなわち皮下や粘膜上皮細胞下に進入し、さらにリンパ系や血液中に入ってからである。免疫が成立する以前の初期段階では補体と貧食が防御の主体となる。活性化された補体によって食細胞の貧食能が促進し、食細胞を効率よく感染局所に動員される。この初期防御の段階で、どこまで宿主側が守りきれぬかが、発病するかしないかの決め手となる²⁾。時が経過して特異免疫が成立すれば、戦いの局面は抗体による液性免疫と細胞性免疫を中心とした局面へと展開していく。仮に局地戦で破れたとしても、一般的には全身の防御システムが二重、三重に張り巡らされているので、容易に戦線が全身に波及したりはしない。しかし、いったん全身の防御システムが破られると敗血症となり、全身性炎症反応（SIRS）が惹起され、抗生物質も次第に効かなくなり、全身が焦土と化したとき死に至る。人間は戦いに勝つことにより生き延びることができるが、微生物が勝った時は宿主が死亡するときであり、これは同時に微生物も死ぬことを意味する。すなわち、微生物の戦い方は自己破滅型である。

同じ敵であっても宿主によって勝ち負けがある。すなわち、発病する人とならない人がいる。これは補体と食細胞とによる初期防御システムの質の問題である。この防御システムは自衛隊に似ている。隊員数がどれくらいいるか、隊員の戦闘能力は高いか低い、最前線に効率よく動員するシステムはどうか、戦闘で死亡した隊員の補充は迅速に行うことができるか、などが防御能力を左右する要因である。これらの能力は老化したり病気が重症化すると低下し、宿主は病原性微生物の格好の的となる。特に救急医療の現場や重症疾患を扱うICUなどでは、死因の8割以上が細菌や真菌の感染症である。重症になり免疫力が低下したとき、現在の医療レベルでは抗生物質や抗真菌剤が効かなければ為すべがない。今までの対細菌戦では、製薬会社という武器商人の宣伝文句にのせられて、抗生物質という無差別絨毯爆撃型ミサイルを使用することで戦ってきた。宿主の防御能力が高いものも低いものも、その能力がほとんど考慮されることなく、一様に、しかも必要以上に大量使用が繰り返されてきた。それは結果的に耐性菌の出現という形で、敵の攻撃能力をいっそう高める結果をもたらしたのである。抗生物質を使う限り必ず耐性菌は出現する。そろそろ「イタチごっこ」に終止符を打つことを真剣に考えなければならない時がきている。

人間の免疫系は自己と非自己によって成り立っている。非自己がなければ人間の免疫系はもっと単純であったと同時に、これほど長期間にわたって地球上に存在し得なかったかもしれない。非自己の最たるものが細菌をはじめとする微生物である。微生物は常に人体

の外にあって、腸管などの内において、非自己の確立のために役立っている。体内では細菌などがもたらす最新の情報を基に、常に自己・非自己の区別の学習が行われている。この区別に何らかのトラブルが発生すると自己免疫疾患をはじめとする様々な病気が発生する。500種類もの細菌がせめぎ合ってバランスを保っている腸内細菌叢を抗生物質は乱している。さらに、抗生物質は今やヒトのみならず養殖魚、家畜などの飼料に日常的に加えられ、抗生物質生産量の半分はヒト以外に投与されている。ヒトと微生物とが何百万年にもわたって築いてきた共存関係は、抗生物質の出現によってわずか数十年で一気に変わろうとしている。

そもそも人類は感染症から逃れることはできない。人類は500万年前に誕生したといわれるが、そのはるか以前の10億年以上前、酸素よりもNOが多かった地球上で大気に適応してきた細菌は、百戦錬磨、変幻自在であり、殲滅・撲滅は不可能なのである。細菌を殺そうとするから生き延びようとする。1945年ノーベル賞を授与したフレミングは、第二次大戦後、ペニシリンが一般の病院でも使用されるようになったことに危惧の念を抱き、当時すでに耐性菌の出現を予言し、誤った使い方をすると将来失望するだろうと言っている。抗生物質は細菌に耐性菌という新たな形態を強いたのみならず、食料、ヒトの免疫系などにも忌むべき大きな変化をもたらしている。20世紀は抗生物質の時代であったが、21世紀は脱抗生物質の時代にならなければならない。そのためには抗生物質に取って代わる方策を講じる必要がある。一つは宿主の防衛能力すなわち免疫力の強化である。術創部がMRSA感染を引き起こしたとしても、病状が安定し体力が回復してくると、たとえ抗生物質を使用しなくともMRSAが消失することはしばしば経験する。これは宿主の自衛隊の能力が回復したことに他ならない。第二は対細菌戦の戦略の変更である。人間と病原性微生物との戦いは情報戦といっても過言ではない。免疫学、遺伝学を駆使して、ウィルスに対するワクチンのような特異的戦略を構築し、抗生物質にとって代わる細菌感染症治療を確立すべきである。現時点では明日の治療には抗生物質は欠かせないが、新たな抗生物質開発につき込まれるであろう巨額の投資は、今すぐにでも新たな治療法確立のために向けられるべきであろう。

数十年後には二十世紀では頻繁に抗生物質を使って治療していたそうだとされるようになることを祈っている。

- 1) 「碧素・日本ペニシリン物語」(角田房子著、新潮社、1978年)
- 2) 「細菌の逆襲」(吉川昌之介著、中公新書、1995年)

国際学会発表

1998 年

- International Society for Apheresis, 2nd International Congress (April 15-18, 1999 = Saarbrücken, Germany)

New Lymphocytapheresis (LCAP) technique for cytokine control - Application to inflammatory bowel disease (IBD) -

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

A. Kawamura, M. Saitoh, M. Yonekawa,
T. Hanamoto, M. Osanai, H. Hanada,
Y. Masuko, M. Yasuhara, M. Tanaka,
T. Tamaki, K. Kukita, J. Meguro,
H. Ohizumi, Y. Konoeda

[Symposium] Extracorporeal immunomodulation by cryofiltration in transplantation

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation, & Gene Therapy

M. Osanai, A. Kawamura, M. Yonekawa

- 7th International Society for Malignant Lymphoma (June 2 - 5, 1999 = Lugano, Switzerland)

A dose-finding study for lenograstim in PBSC mobilization in patients with non-Hodgkin's lymphoma

Lenograstim/Lymphoma Study Group M. Ogura, K. Takeyama, Y. Morishima,

M. Kasai, Y. Kiyama, K. Ohnishi,
H. Mitsuya, F. Kawano, Y. Masaki, T. Sasaki,
T. Chou, K. Tobinai

- 2nd Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (June 9 - 13, 1999 = Washington DC, USA)

Inhibition of the proliferation of human leukemic cells by Wilms tumor gene (WT1) antisense oligonucleotides

Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene therapy

M. Ogasawara, Y. Sakamoto, T. Ogawa,
N. Kobayashi, Y. Kiyama, T. Naohara,
T. Higa, M. Kasai

• XII World Congress of International Society for Artificial Organs (August 3 - 6, 1999 = Edinburgh, UK)

EDA(+)fibronectin adsorption treatment of adjuvant induced arthritis rats

Sapporo Hokuyu Hospital,

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation and Gene therapy

M. Yonekawa, M. Tanaka, A. Kawamura,
T. Tamaki

Ohtsuka Pharmaceutical Factory M. Sawamoto, E. Sakashita

Transferrin saturation after intravenous injection of chondroitin sulfate, iron colloid sol in hemodialysis patients

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

K. Kukita, Y. Uchida, Y. Masuko, M. Tanaka,
T. Tamaki, J. Meguro, M. Yonekawa,
A. Kawamura

• 6th Congress of the Asian Society of Transplantation (September 20-24, 1999 = Singapore)

Involvement of Kupffer cells in challenges of OK-432 or LPS to rat livers stored for transplantation

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation, & Gene Therapy

T. Tamaki, Y. Konoeda, M. Tanaka,
A. Kawamura, Y. Uchida, T. Kaizu

Dept. of Surgery, Kitasato Univ.

A. Kakita

The effects of leukotriene B4 receptor antagonist (ONO4057) on rat liver allotransplantation

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation, & Gene Therapy

M. Tanaka, T. Tamaki, Y. Konoeda,
Y. Uchida, T. Kaizu, A. Kawamura

De novo protein synthesis induced by donor nutritional depletion ameliorates cold ischemia and reperfusion injury in rat livers

Research Institute for Artificial Organs, Transplantation, & Gene Therapy

Y. Uchida, T. Tamaki, M. Tanaka,
Y. Konoeda, A. Kawamura

Dept. of Surgery, Kitasato Univ.

Y. Takahashi, A. Kakita

全国学会発表

平成 11 年

・日本医工学治療学会第 12 回学術大会（平成 11 年 2 月 6, 7 日 = 神戸）

〔シンポジウム〕長期透析の合併症

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 久木田和丘, 川村 明夫

吸水性ポリマーによる消化管内水分吸収の基礎的検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹, 小山内 誠, 川村 明

夫,

久木田和丘, 田中三津子, 此枝 義記,

玉置 透, 目黒 順一

直列式連結で施行した血液浄化法

札幌北榆病院 看護部 鶴谷 敬之, 土濃塚広樹, 栗坪 睦子

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 玉置 透, 目黒 順一,

米川 元樹，川村 明夫

- ・第 53 回日本消化器外科学会総会（平成 11 年 2 月 18，19 日 = 京都）

潰瘍性大腸炎（UC）の手術療法時の術前処置としてのアフエレーシスの意義

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，花本 尊之，花田 裕之，
小山内 誠，内田 泰至，鹿取 正道，
増子 佳弘，安原 満夫，田中三津子，
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，
川村 明夫
札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子，斎藤 雅雄

- ・第 4 回ブラッドアクセスインターベンション治療研究会（平成 11 年 2 月 20 日 = 東京）

〔パネルディスカッション〕ブラッドアクセスインターベンションの適応症例と
保険請求上の論点

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

- ・第 32 回日本腎移植臨床研究会（平成 11 年 3 月 3～5 日 = 横浜）

タクロリムス（FK）使用後に著明な舌下粘膜浮腫を含む多彩な症状を呈した生体
腎移植症例

札幌北榆病院 外科 田中三津子，玉置 透，鹿取 正道，
小山内 誠，安原 満夫，増子 佳弘，
花田 裕之，内田 泰至，花本 尊之，
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

末梢血リンパ球サブセットの解析による腎移植後免疫反応（拒絶 / 感染）の予知
と診断

札幌北榆病院 外科 田中三津子，玉置 透，鹿取 正道，
小山内 誠，安原 満夫，増子 佳弘，
花田 裕之，内田 泰至，花本 尊之，
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

鏡視補助下ドナー摘出腎移植後の移植尿管破裂の一治験例

札幌北榆病院 外科 鹿取 正道, 田中三津子, 玉置 透,
小山内 誠, 安原 満夫, 増子 佳弘,
花田 裕之, 内田 泰至, 花本 尊之,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

・第7回赤十字血液シンポジウム(北海道会場)(平成11年3月13日=札幌)

〔指定発言〕血液疾患における輸血の問題点

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

・第99回日本外科学会総会(平成11年3月24~26日=福岡)

〔ワークショップ〕ラット心虚血再灌流傷害における Nitric Oxide 供与体のドナー前投与の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 鹿取 正道, 玉置 透, 田中三津子,

此枝 義記, 内田 泰至, 横田 亘弘,
林 隆則, 奥河 朱希, 川村 明夫

北里大 外科 柿田 章

胸骨斜切開による上縦隔内副甲状腺摘出術の検討

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 久木田和丘, 田中三津子,
目黒 順一, 玉置 透, 川村 明夫

北大 第一外科 安原 満夫, 増子 佳弘, 花本 尊之

旭川医大 第二外科 小山内 誠

北里大 外科 鹿取 正道, 内田 泰至

昭和大 第二外科 花田 裕之

蛍光色素 Propidium iodide と Annexin V 灌流染色による保存心の viability 判定法の開発: apoptosis を指標にした蛍光免疫組織学的検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透, 増子 佳弘, 此枝 義記,

田中三津子, 横田 亘弘, 林 隆則,
鹿取 正道, 川村 明夫

ラット小腸温阻血再灌流傷害に対する L-Glutamine 誘導性 Heme Oxygenase-1 の細胞保護効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透, 安原 満夫, 田中三津子,

此枝 義記, 横田 亘弘, 林 隆則,
奥河 朱希, 鹿取 正道, 内田 泰至,
米川 元樹, 川村 明夫

ラット同種肝移植モデルにおける ONO4057 の生着延長効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 田中三津子, 玉置 透, 此枝 義記,

内田 泰至, 鹿取 正道, 林 隆則,
奥河 朱希, 川村 明夫

Adenosine A1 receptor antagonist のドナー前投与による抗酸化物質の誘導と心虚血再灌流傷害の抑制効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 鹿取 正道, 花本 尊之, 玉置 透,
田中三津子, 此枝 義記, 内田 泰至,
横田 亘弘, 林 隆則, 奥河 朱希,
川村 明夫
北里大 外科 柿田 章

ドナーの栄養状態における de novo 蛋白質合成と肝虚血再灌流傷害に対する耐性の比較検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 内田 泰至, 玉置 透, 田中三津子,

鹿取 正道, 此枝 義記, 林 隆則,
奥河 朱希, 川村 明夫
北里大 外科 高橋 禎人, 柿田 章

創傷治癒において, 一過性の bcl-2 発現誘導と Telomerase 活性出現を伴い肉芽形成が進行する

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 小山内 誠, 玉置 透, 川村 明夫

旭川医大 第二外科 葛西 眞一

- ・第61回日本血液学会総会（平成11年4月19～21日＝東京）

当施設におけるallo PBSCTの検討

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫，阪本 好史，小川 貴史，
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，
直原 徹，笠井 正晴

北海道におけるNK細胞性腫瘍症例

北海道血液症例検討会 直原 徹，笠井 正晴，小林 一，
河野 通史，相川 啓子，澤田 賢一，
藤江 禎二，日野田裕治，福原 敬，
森 正光

非ホジキンリンパ腫患者での末梢血幹細胞採取におけるレノグラスチムの用量設定試験の最終解析結果

レノグラスチム/悪性リンパ腫研究グループ

木山 善雄，竹山 邦彦，笠井 正晴，
森島 泰雄，小椋美知則，大西 一功，
満屋 裕明，河野 文夫，正木 康史，
佐々木常雄，張 高明，飛内 賢正

胃原発T細胞性非ホジキンリンパ腫の一例

札幌北榆病院 内科 阪本 好史，小川 貴史，小林 直樹，
小笠原正浩，木山 善雄，直原 徹，
比嘉 敏夫，笠井 正晴
うへはた内科 上畠 泰

- ・第85回日本消化器病学会総会（平成11年4月22～24日＝長崎）

サイタフェレシスの基礎的検討 - ボランティアによる control study -

札幌北榆病院 外科 米川 元樹，川村 明夫，玉置 透，
田中三津子

札幌北榆病院 検査科 此枝 義記

肝硬変患者に対する¹³C尿素呼気試験の血中NH₃濃度への影響の検討

札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子, 中川 学, 大石 正枝,
依田 有生, 川村 直之, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 木山 善雄, 直原 徹,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

白血球除去療法により寛解に至った潰瘍性大腸炎の2例

札幌北榆病院 消化器科 大石 正枝, 中川 学, 依田 有生,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 木山 善雄, 直原 徹,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 外科 玉置 透, 米川 元樹, 川村 明夫

・第57回日本消化器内視鏡学会総会(平成11年5月10~12日=金沢)

瘻孔を伴ったCrohn病患者に対する白血球除去療法(LCAP)の治療経験

札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子, 斎藤 雅雄, 横山 朗子,
中川 学, 大石 正枝, 依田 有生,
川村 直之

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 川村 明夫

PPI抵抗性潰瘍4例の検討

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之, 横山 朗子, 中川 学,
大石 正枝, 依田 有生, 大泉 弘子,
斎藤 雅雄

消化性潰瘍におけるHelicobacter pylori陰性潰瘍の検討

札幌北榆病院 消化器科 中川 学, 斎藤 雅雄, 横山 朗子,
大石 正枝, 依田 有生, 川村 直之,
大泉 弘子

・第47回日本輸血学会総会(平成11年5月12~14日=仙台)

当院における輸血適正化の試み

札幌北榆病院 血液内科 直原 徹, 阪本 好史, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴
札幌北榆病院 輸血部 三浦 玲子

- ・第48回日本臨床衛生検査学会(平成11年5月12日=広島)
マイクロサテライトを利用した VNTR 一致同種造血幹細胞移植症例の個人識別の
検討

札幌北榆病院 検査科 三浦 玲子

CD69 抗原を用いたリンパ球幼若化反応測定法(第1報) - RI 法との比較検討 -

札幌北榆病院 検査科 奥河 朱希, 此枝 義記, 片山妃奈美,
三浦 玲子, 横田 亘弘

- CD69 抗原を用いたリンパ球幼若化反応測定法(第2報) - 免疫抑制剤のリンパ球
感受性試験への応用 -

札幌北榆病院 検査科 此枝 義記, 奥河 朱希, 片山妃奈美,
三浦 玲子, 横田 亘弘

- ・日本麻酔学会第46回大会(平成11年5月25~28日=札幌)
骨髄バンクドナーの骨髄採取とヘモグロビン低下 - (財)骨髄移植推進財団ドナー
安全委員会報告 -

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫
東大医科学研究所附属病院 手術部 山田 芳嗣
聖マリアンナ医科大学 麻酔科 青木 正

- ・第6回日本臓器保存生物医学会総会(平成11年5月27, 28日=豊中)
肝臓の加圧下非凍結氷点下保存の試み

北里大学 外科 高橋 毅, 高橋 禎人, 坂本いずみ,
林 京子, 藤生 俊弘, 佐藤 光史,
柿田 章

北里大学 解剖 山科 正平
人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透
スギノマシン研究開発部 高沢 義昭, 村椿 良司

・第8回腎不全外科研究会（平成11年5月29日＝京都）

血液透析患者における汎発性腹膜炎手術と予後

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，目黒 順一，内田 泰至，
増子 佳弘，田中三津子，玉置 透，
米川 元樹，川村 明夫
札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫

透析患者の腰椎麻酔

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫
札幌北榆病院 外科 久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

・第19回日本アフェレシス学会学術大会（平成11年6月10，11日＝大津）

〔シンポジウム〕炎症性腸疾患に対する輸血用微小凝集塊除去フィルター（ファインセル）を用いた白血球除去療法の検討

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所，札幌北榆病院
川村 明夫，玉置 透，米川 元樹，
此枝 義記，斎藤 雅雄

〔シンポジウム〕腎移植とアフェレシスの応用

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，玉置 透，米川 元樹，
川村 明夫

〔ワークショップ〕急性肝不全に対するアフェレシスの臨床成果

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，玉置 透，久木田和丘，
米川 元樹，川村 明夫

〔ワークショップ〕EDA(+)フィブロンекチン吸着カラムの開発

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹，田中三津子，川村 明夫，

此枝 義記，玉置 透
大塚製薬工場 澤本 雅昭，坂下 栄治

単純な体外循環のみでも免疫調節は行われる

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹，川村 明夫，玉置 透，

田中三津子，此枝 義記

- ・第 19 回日本アフェレシス学会学術大会 技術講習会（平成 11 年 6 月 10 日 = 大津）

〔講演〕血漿交換療法の基礎

札幌北榆病院 米川 元樹

- ・第 35 回日本肝癌研究会（平成 11 年 6 月 10，11 日 = 京都）

術後再発に対して 1 度の TAE により腫瘍の消失が得られた原発性肝癌の長期生存例

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，花本 尊之，花田 裕之，

小山内 誠，内田 泰至，鹿取 正道，

増子 佳弘，安原 満夫，田中三津子，

玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，

川村 明夫

- ・第 5 回日本遺伝子治療学会総会（平成 11 年 6 月 18，19 日 = 東京）

Expression of retrovirus receptors on human hematopoietic stem cells:
Relationship between the receptor expression and the transduction efficiency

札幌北榆病院 内科 T. Ogawa, M. Ogasawara, Y. Sakamoto,

N. Kobayashi, Y. Kiyama, T. Naohara,

T. Higa, M. Kasai

- ・第 17 回肝移植研究会・第 25 回日本急性肝不全研究会 合同学術集会(平成 11 年 6 月 22，23 日 = 東京)

予後が肝移植適応基準に合致しなかった劇症肝炎症例

札幌北榆病院 外科 目黒 順一，有倉 潤，村井 紀元，

内田 泰至，飯田 潤一，増子 佳弘，

堀江 卓，田中三津子，玉置 透，

久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

- ・第 35 回日本肝臓学会総会（平成 11 年 6 月 24，25 日 = 東京）

肝臓の加圧過冷却保存法の開発に関する基礎的研究

北里大学 外科 高橋 毅, 高橋 禎人, 坂本いずみ,
林 京子, 田所 文彦, 佐藤 光史,
柿田 章
人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透

・第44回日本透析医学会学術集会・総会(平成11年6月25~27日=横浜)

二次性副甲状腺機能亢進症における胸骨斜切開による縦隔内副甲状腺摘出術

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 久木田和丘, 田中三津子,
増子 佳弘, 内田 泰至, 目黒 順一,
玉置 透, 川村 明夫

血液透析患者の免疫機能からみた耐術能評価

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 川村 明夫, 増子 佳弘,
安原 満夫, 田中三津子, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹

血液透析用内シャントの長期開存への工夫

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 久木田和丘, 田中三津子,
小山内 誠, 内田 泰至, 花田 裕之,
鹿取 正道, 安原 満夫, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

透析患者定期手術の術前管理 - 腰椎麻酔時の術前除水条件 -

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫
札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

聾啞者への透析導入指導と看護援助

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 宮腰 麻矢, 藤田真理子,
阿部 博,
山本 美好, 栗坪 睦子, 田中三津子,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

重複障害を持った透析患者さんを援助して

札幌北榆病院 MSW 岩田 和江, 山田美砂子, 高橋 敦子

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 久木田和丘, 川村 明夫

- 第 5 回 Double Megatherapy 研究会 (平成 11 年 7 月 3 日 = 大阪)
“Total Therapy” を施行した Multiple myeloma の 1 例
札幌北榆病院 内科 木山 善雄, 笠井 正晴
- 第 54 回日本消化器外科学会総会 (平成 11 年 7 月 15, 16 日 = 東京)
腹腔鏡下癒着剥離術を施行した Fitz-Hugh-Curtis 症候群の 2 例
札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 花本 尊之, 小山内 誠,
内田 泰至, 花田 裕之, 鹿取 正道,
安原 満夫, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫
- 第 6 回日本門脈圧亢進症学会 (平成 11 年 9 月 3, 4 日 = 宇部)
術後 5 年以上経過したシャント手術症例の検討
札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 有倉 潤, 村井 紀元,
海津 貴史, 内田 泰至, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫
- 第 3 回日本気胸学会総会 (平成 11 年 9 月 11, 12 日 = 京都)
自然気胸手術における三次元画像の有用性
札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史
- 第 35 回日本移植学会総会 (平成 11 年 9 月 16, 17 日 = つくば)
ラット同種肝移植モデルにおける LTB4 receptor antagonist (ONO 4057) の役割
人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 田中三津子, 玉置 透, 此枝 義
記,
海津 貴史, 内田 泰至, 川村 明夫

ラット小腸温阻血後再灌流障害における L-Glutamine 誘導性 Heme Oxygenase-1
の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 増子 佳弘，玉置 透，田中三津
子，

此枝 義記，横田 亘弘，川村 明夫
北大 第一外科 安原 満夫

生体腎移植における後腹膜鏡補助下ドナー腎摘出術の経験

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘，目黒 順一，有倉 潤，
海津 貴史，村井 紀元，内田 泰至，
飯田 潤一，堀江 卓，田中三津子，
玉置 透，久木田和丘，米川 元樹，
川村 明夫

Hemin 投与による抗酸化ストレス蛋白 Heme Oxygenase の誘導発現とラット肝虚血
再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 内田 泰至，玉置 透，田中三津
子，

此枝 義記，増子 佳弘，海津 貴史，
奥河 朱希，横田 亘弘，川村 明夫
北里大 外科 柿田 章

ラット肝温虚血傷害に対する OK432 の効果：PI 灌流染色法による肝の viability
測定

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 此枝 義記，玉置 透，田中三津
子，

内田 泰至，海津 貴史，川村 明夫
北里大 外科 柿田 章

- ・日本医工学治療学会第 13 回学術大会（平成 11 年 9 月 17～19 日＝東京）
〔座談会〕医工学治療で薬物療法からの脱却を目指せ
札幌北榆病院 外科 川村 明夫

ブラッドアクセスインターベンション治療後の放射線療法の試み

札幌北榆病院 外科 米川 元樹，久木田和丘，川村 明夫，
有倉 潤，村井 紀元，海津 貴史，
内田 泰至，飯田 潤一，増子 佳弘，
堀江 卓，田中三津子，玉置 透，
目黒 順一

当院における A 剤溶解装置の使用経験

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 小塚 麻紀，後藤 洋右，
久木田和丘，
米川 元樹，川村 明夫

・第 37 回日本癌治療学会総会（平成 11 年 10 月 12～14 日＝岐阜）

〔プレジデントセッション〕難治性胚細胞腫瘍（GCT）に対する自家造血幹細胞移植（AST）併用大量化学療法（HDC）

札幌北榆病院 内科 木山 善雄，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

進行乳癌に対する自家造血幹細胞移植併用大量化学療法（AST 併用 HDC）

札幌北榆病院 内科 近藤 洋子，山口 薫子，小川 貴史，
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

・第 41 回日本臨床血液学会総会（平成 11 年 10 月 13～15 日＝秋田）

同種末梢血幹細胞移植ドナーにおける G-CSF 投与後の末梢血単核細胞サブセット
のカイネティクス

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，
木山 善雄，直原 徹，比嘉 敏夫

同種末梢血幹細胞移植後の慢性肝 GVHD に対して抗凝固線溶療法により改善を認めた 2 症例

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，

木山 善雄，直原 徹，笠井 正晴

白血病診断時のB細胞特異抗原としてのCD79aの有用性

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，木山 善雄，
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

多発性骨髄腫における自家造血幹細胞移植の検討

札幌北榆病院 内科 山口 薫子，近藤 洋子，小川 貴史，
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

・第10回日本急性血液浄化学会（平成11年10月15，16日＝神戸）

血液浄化回路を用いた簡易冷却回路の試作及び臨床応用

札幌北榆病院 臨床工学技士 土濃塚広樹，鶴谷 敬之，那須野優
美，

田島 恵子

札幌北榆病院 外科 玉置 透，目黒 順一，久木田和丘，
米川 元樹，川村 明夫

・第37回日本人工臓器学会大会（平成11年10月15，16日＝名古屋）

〔ワークショップ〕血液浄化用ブラッドアクセスとしてのダブルルーメンカテー
テルの改良と問題点

札幌北榆病院 外科 久木田和丘，米川 元樹，川村 明夫

輸血用微小凝集塊除去フィルター（ファインセル）を用いたサイトカインのコン
トロールと炎症性腸疾患への適用

札幌北榆病院 外科 川村 明夫，米川 元樹，玉置 透，
目黒 順一，久木田和丘，田中三津子，
堀江 卓，増子 佳弘，内田 泰至
札幌北榆病院 消化器科 斎藤 雅雄

血液透析用非穿刺型ブラッドアクセス及び非穿刺型ブラッドアクセス接続カニ
ューレアセンブリの開発

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 川村 明夫, 久木田和丘,
米川 元樹,

田中三津子, 玉置 透, 目黒 順一

Cryofiltration 施行中に血液中に引き出される EDA(+)フィブロネクチンの検討

札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 久木田和丘, 目黒 順一,

玉置 透, 川村 明夫

大塚製薬工場 坂下 栄治

劇症肝炎に対するアフェレシス

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 内田 泰至, 増子 佳弘,

堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透,

久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

硫酸化ジェランを用いた血管内皮細胞の培養

三重大工 駒井 喬, 宮本 啓一, 橋本 賢一,

鴫田 昌之

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹, 川村 明夫

大塚製薬工場(株) 宮下 警一, 坂下 栄治

EDA(+)フィブロネクチンの硫酸化多糖認識

三重大工 宮本 啓一, 前田 里津, 鴫田 昌之,

駒井 喬

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 米川 元樹, 川村 明夫

大塚製薬工場(株) 宮下 警一, 坂下 栄治

・第54回日本大腸肛門病学会総会(平成11年10月23,24日=東京)

慢性関節リウマチに合併した腸管アミロイドーシスの2例

札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子, 大石 正枝, 依田 有生,

川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

・第41回日本消化器病学会大会(平成11年10月28~31日=広島)

ステロイド抵抗性潰瘍性大腸炎の寛解導入療法としての白血球除去療法(LCAP)

の検討

札幌北榆病院 消化器科 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

骨髄移植後, 胃壁に再発した Granulocytic sarcoma の一例

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之, 横山 朗子, 大石 正枝,

依田 有生, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

ステロイド抵抗性潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法による寛解導入後の維持療法についての検討

札幌北榆病院 消化器科 大石 正枝, 横山 朗子, 依田 有生,

川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 木山 善雄, 直原 徹,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 外科 玉置 透, 米川 元樹, 川村 明夫

・第58回日本消化器内視鏡学会総会(平成11年10月28~31日=広島)

サイトメガロウイルスによる消化管病変の2例

札幌北榆病院 消化器科 依田 有生, 中川 学, 横山 朗子,

大石 正枝, 川村 直之, 大泉 弘子,

斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

腹腔鏡検査で確診された Fitz-Hugh-Curtis 症候群の2例

札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子, 中川 学, 大石 正枝,

依田 有生, 川村 直之, 大泉 弘子,

斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第26回日本股関節学会学術集会(平成11年10月29,30日=仙台)

反対側の股関節に骨性強直のある脱臼位股関節症に対して行った人工関節置換術の2例

札幌北榆病院 整形外科 東 輝彦

- ・第3回アクセス研究会（平成11年10月31日＝福岡）

〔シンポジウム〕長期留置カテーテルの問題

札幌北榆病院 外科 久木田和丘

高血流量シャント症例の検討

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 有倉 潤, 村井 紀元,

海津 貴史, 内田 泰至, 飯田 潤一,

増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,

玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,

川村 明夫

- ・日本臨床麻酔学会第19回大会（平成11年11月3～5日＝東京）

透析患者の腰椎麻酔時の術前管理

札幌北榆病院 麻酔科 中尾 康夫

- ・厚生省がん研究「非血縁者間の同種血液幹細胞移植法による悪性腫瘍の治療向上に関する研究」班

平成11年度第2回研究班会議（平成11年11月13日＝名古屋）

Allo PBSCT時のGVHDと転帰の解析

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 笠井 正晴

- ・第26回日本低温医学会総会（平成11年11月18, 19日＝福岡）

〔シンポジウム〕凍結保存による造血幹細胞および単核細胞の変化

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴, 小林 直樹

ドナーの栄養状態と肝保存後のviability

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透, 内田 泰至, 田中三津

子,

此枝 義記, 海津 貴史, 三浦 玲子,

奥河 朱希, 川村 明夫

ラット腎虚血再灌流障害におけるHO-1発現の役割

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史, 玉置 透, 田中三津

子,

内田 泰至, 此枝 義記, 川村 明夫
北里大 外科 柿田 章

・第 12 回日本透析医会シンポジウム「透析医療における Consensus Conference'99」(平成 11 年 11 月 21

日 = 東京)

〔講演〕インターベンション治療による長期的 Blood Access 管理と展望 - 医療経済的展望を含む -

札幌北榆病院 外科 久木田和丘

・第 12 回日本内視鏡外科学会総会 (平成 11 年 12 月 1, 2 日 = 東京)

気腫性肺疾患の手術における三次元画像の有用性

札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

・第 22 回日本造血細胞移植学会総会 (平成 11 年 12 月 16, 17 日 = 広島)

〔シンポジウム〕「骨髄移植関連 TMA」の全国アンケート調査

札幌北榆病院 内科 小林 直樹, 笠井 正晴

非血縁者間骨髄移植後, 腹部臓器播種, 水痘肺炎, 両側気胸などの重症水痘感染症を併発した RAEB 症例

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 近藤 洋子, 山口 薫子,

小川 貴史, 小林 直樹, 木山 善雄,

直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 呼吸器科 本田 哲史

同種骨髄移植後に発症した Granulocytic Sarcoma (GS) に対してドナーリンパ球輸注療法 (DLI) を併用した治療を施行した AML の 2 症例

札幌北榆病院 内科 小川 貴史, 近藤 洋子, 山口 薫子,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

帯広厚生病院 第四内科 小林 一

〔ワークショップ〕造血幹細胞移植の当センターにおける無菌管理基準の検討

札幌北榆病院 造血細胞移植センター 看護部

戸田 香織, 渡辺 美香, 北村美奈子,

萬 博美

札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

同種幹細胞移植患者のオリエンテーションの一考察 - 患者用クリティカルパス
の作成 -

札幌北榆病院 造血細胞移植センター 看護部

佐藤亜由美, 渡辺 美香, 北村美奈子,

萬 博美

札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

乳癌術後化学療法施行時の末梢血幹細胞 (PBSC) 動員におけるレノグラスチムの
推奨用量の最終検討結果

新潟県立がんセンター 張 高明

国立がんセンター中央病院 奈良林 至, 飛内 賢正

東海大学 田島 知郎, 徳田 裕

国立がんセンター東病院 五十嵐忠彦

愛知県がんセンター 森島 泰雄, 小椋美知則

慶応大学 岡本真一郎

札幌北榆病院 笠井 正晴

名古屋大学 竹山 邦彦, 横澤 敏也

・第4回臨床ストレス蛋白質研究会 (平成11年12月19日 = 京都)

肝虚血再灌流傷害に対する耐性獲得と飢餓ストレス誘導分子の役割

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 玉置 透, 此枝 義記, 田中三津
子,

内田 泰至, 三浦 玲子, 村井 紀元,

川村 明夫

北里大学 外科 高橋 禎人

Hemin 投与による抗酸化ストレス蛋白 Heme Oxygenase の誘導発現とラット肝虚血
再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 内田 泰至, 玉置 透, 田中三津

子,

海津 貴史, 村井 紀元, 此枝 義記,
横田 亘弘, 川村 明夫
北里大学 外科 柿田 章

腎虚血再灌流障害における H0-1 阻害剤の保護効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史, 玉置 透, 田中三津

子,

内田 泰至, 此枝 義記, 川村 明夫
北里大学 外科 柿田 章

地方会発表

平成 11 年

・第 19 回病院学会 (平成 11 年 1 月 16 日 = 札幌)

受け持ち制導入による看護婦の意識の変化と関わり

札幌北榆病院 4 病棟 西出留美子, 井上 淑恵, 梶沼 智江,
池田えりか, 斉藤 知穂, 花岡亜希子,
水島 玲奈, 菅原みよ子, 関根 聖美,
横浜こずえ, 田代 卓良, 栗坪 睦子

社会復帰を維持する治療環境について - 血液透析患者さんの場合 -

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 豊田 美帆, 藤田真理子,

阿部 博,

栗坪 睦子

・第 70 回北海道外科学会 (平成 11 年 1 月 23 日 = 札幌)

当科におけるイレウス症例の検討

札幌北榆病院 外科 安原 満夫, 目黒 順一, 花本 尊之,
小山内 誠, 花田 裕之, 増子 佳弘,
内田 泰至, 鹿取 正道, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

胃壁外腫瘍の一例

札幌北榆病院 外科 花本 尊之, 目黒 順一, 小山内 誠,
花田 裕之, 増子 佳弘, 安原 満夫,
内田 泰至, 鹿取 正道, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

- ・第24回札幌市医師会医学会(平成11年2月21日=札幌)

[シンポジウム]再生不良性貧血とEPO

札幌北榆病院 内科 比嘉 敏夫

透析患者における鉄剤静注時の鉄飽和度の検討

札幌北榆病院 外科 久木田和丘, 川村 明夫, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹

造血器悪性腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の検討

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 阪本 好史, 小川 貴史,
小林 直樹, 木山 善雄, 直原 徹,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・日本消化器病学会北海道支部 第18回教育講演会(平成11年3月6日=札幌)

[講演]潰瘍性大腸炎の白血球除去療法

札幌北榆病院 消化器科 斎藤 雅雄

- ・第3回北海道臓器移植フォーラム(平成11年4月10日=札幌)

ラット小腸温阻血再灌流障害におけるL-Glutamine誘導性抗酸化ストレス蛋白質
の効果

札幌北榆病院 玉置 透, 田中三津子, 此枝 義記,
安原 満夫, 川村 明夫

後腹膜腔鏡補助ドナー腎摘除術の経験

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 玉置 透, 田中三津子,

花本 尊之, 安原 満夫, 増子 佳弘,
小山内 誠, 鹿取 正道, 内田 泰至,
花田 裕之, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

マイクロサテライトマーカーを用いた造血幹細胞移植後のキメリズムの検索と微小残存病変のモニタリング

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩, 笠井 正晴

・第34回日本血液学会北海道地方会(平成11年4月24日=旭川)

AMLに対する同種血液幹細胞移植の検討

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 近藤 洋子, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

縦隔原発CD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫(CD5+ DLBL)の1例

札幌北榆病院 内科 近藤 洋子, 山口 薫子, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第5回北海道内視鏡外科研究会(平成11年5月29日=札幌)

生体腎移植術における鏡視補助下ドナー腎摘出術施行例の検討

札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 有倉 潤, 村井 紀元,
海津 貴史, 内田 泰至, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫

腹腔鏡下癒着剥離術を施行したFitz-Hugh-Curtis症候群の2例

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 有倉 潤, 海津 貴史,
村井 紀元, 内田 泰至, 飯田 潤一,
堀江 卓, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

- ・第75回北海道臨床衛生検査技師学会（平成11年5月29日＝旭川）

北海道の遺伝子検査の現状 - アンケート調査報告 -

北臨技遺伝子染色体検査研究班長 三浦 玲子

- ・第10回北海道腎移植談話会（平成11年6月5日＝札幌）

早期ステロイド離脱した糖尿病合併献腎移植症例

札幌北榆病院 外科 田中三津子，玉置 透，有倉 潤，
村井 紀元，海津 貴史，内田 泰至，
飯田 潤一，増子 佳弘，堀江 卓，
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

サイトメガロウイルス性十二指腸炎の一治験例

札幌北榆病院 外科 内田 泰至，田中三津子，玉置 透，
有倉 潤，村井 紀元，海津 貴史，
飯田 潤一，増子 佳弘，堀江 卓，
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

生体腎移植ドナーのクリティカル・パス導入に向けて

札幌北榆病院 第6病棟 宮崎 雅子，川島有美子，内山しずか，
塩田 純子，鈴木 雅永，安達 るり，
栗坪 睦子

- ・第55回北海道透析療法学会（平成11年6月6日＝札幌）

改良型血液透析用バルーン付きダブルルーメンカテーテルの使用経験

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘，久木田和丘，有倉 潤、
海津 貴史，村井 紀元，内田 泰至，
飯田 潤一，堀江 卓，田中三津子，
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

輸血用微小凝集塊除去フィルターを用いた白血球除去療法について

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 住田 知規, 清信 一貴,
阿部 博,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第10回北海道造血細胞移植研究会(平成11年6月12日=札幌)

非血縁者間骨髄移植後 Thrombotic microangiopathy (TMA) を発症した ALL 症例

札幌北榆病院 内科 山口 薫子, 近藤 洋子, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴
愛育病院 内科 入江 達朗, 森岡 正信

自家末梢血幹細胞移植における看護基準の検討

札幌北榆病院 造血細胞移植センター 渡辺 美香, 佐藤亜由美,
戸田 香織,
北村美奈子, 萬 博美
札幌北榆病院 看護部 栗坪 睦子

・第211回日本内科学会北海道地方会(平成11年6月12日=札幌)

自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) を合併した皮膚原発の Diffuse large B cell
Lymphoma (DLBL) の1例

札幌北榆病院 内科 近藤 洋子, 山口 薫子, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第84回日本消化器病学会北海道支部例会(平成11年6月12日=札幌)

大量腸切除後1年経過したSMA血栓症の1例

札幌北榆病院 外科 堀江 卓, 有倉 潤, 村井 紀元,
飯田 潤一, 内田 泰至, 海津 貴史,
増子 佳弘, 田中三津子, 玉置 透,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

成人腸重積症の2例

札幌北榆病院 消化器科 大石 正枝, 横山 朗子, 依田 有生,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
札幌北榆病院 外科 米川 元樹, 川村 明夫

- ・第78回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会(平成11年6月13日=札幌)
白血球除去療法(LCAP)により初回寛解導入療法を施行した潰瘍性大腸炎4例の
検討

札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子, 大石 正枝, 依田 有生,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

- ・第57回腸疾患研究会(平成11年6月19日=札幌)
慢性関節リウマチに合併した腸管アミロイドーシスの2例
札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子

- ・第15回北海道私的病院学会(平成11年7月3日=札幌)
〔シンポジウム〕院内感染対策委員会の活動について - 急性期病院の立場から -
札幌北榆病院 外科 目黒 順一

在宅自己管理を支える私たちの挑戦 - ケアサポーターズ発足の経緯と今後の課題

札幌北榆病院 外来 久保田文美

- ・第4回悪性腫瘍・血液疾患治療研究会 学術講演会(平成11年7月15日=室蘭)
〔特別講演〕固形腫瘍に対する化学療法と自家移植の限界
札幌北榆病院 笠井 正晴

- ・第10回北海道CAPD談話会(平成11年8月7日=札幌)
CAPDカテーテル抜去症例の検討
札幌北榆病院 外科 目黒 順一, 久木田和丘, 有倉 潤,
海津 貴史, 村井 紀元, 内田 泰至,

飯田 潤一，増子 佳弘，堀江 卓，
田中三津子，玉置 透，米川 元樹，
川村 明夫

- ・第71回北海道外科学会（平成11年9月4日＝札幌）

二次性上皮小体機能亢進症手術前後の骨塩量の変動について

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，久木田和丘，有倉 潤，
村井 紀元，海津 貴史，内田 泰至，
飯田 潤一，増子 佳弘，田中三津子，
玉置 透，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

- ・第1回北海道膵，膵・腎移植検討会（平成11年9月12日＝札幌）

当院における糖尿病性腎症の現状

札幌北榆病院 外科 田中三津子

- ・再生つばさの会第3回北海道医療講演会（平成11年9月18日＝札幌）

〔講演〕再生不良性貧血の日常生活について

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

- ・徳島造血細胞移植術研究会（平成11年9月24日＝徳島）

〔特別講演〕最近の同種造血幹細胞移植の動向

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

- ・第10回Clinical Oncology Forum（平成11年9月25日＝札幌）

術後11年目に肝転移で発症した胃ガストの一例

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之

- ・第85回日本消化器病学会北海道支部例会（平成11年9月25日＝札幌）

腹腔内出血にて発症した胃外発育型巨大胃平滑筋腫の1例

札幌北榆病院 外科 飯田 潤一，有倉 潤，海津 貴史，
村井 紀元，内田 泰至，増子 佳弘，
堀江 卓，田中三津子，玉置 透，
久木田和丘，目黒 順一，米川 元樹，
川村 明夫

術後 11 年目に肝転移を発症した胃 GIST の一例

札幌北榆病院 消化器科 川村 直之，横山 朗子，大石 正枝，
依田 有生，大泉 弘子，斎藤 雅雄

- ・ 第 79 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会（平成 11 年 9 月 26 日 = 札幌）

内視鏡的に観察しえた大腸憩室炎 6 例の検討

札幌北榆病院 消化器科 依田 有生，横山 朗子，大石 正枝，
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

- ・ 第 43 回日本輸血学会北海道支部例会（平成 11 年 10 月 2 日 = 札幌）

急性骨髄性白血病に対し同系移植を行った肝炎ウイルスキャリアの 2 症例

札幌北榆病院 内科 直原 徹，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，
木山 善雄，比嘉 敏夫，笠井 正晴

輸血申し込み伝票の変更による意識の変化

札幌北榆病院 輸血部 三浦 玲子，秋山 直子，豊澤 悠子，
今 直美，片山妃奈美，此枝 義記，
尾下 公人，直原 徹，比嘉 敏夫，
笠井 正晴

- ・ 第 41 回日本臨床血液学会北海道地方会（平成 11 年 10 月 9 日 = 札幌）

〔シンポジウム〕骨髄異形成症候群（MDS）におけるマイクロサテライト不安定性
の検討

札幌北榆病院 内科 小笠原正浩，笠井 正晴

ホジキン病発症の 16 年後に急性リンパ性白血病を発症した 1 症例

札幌北榆病院 内科 直原 徹，近藤 洋子，山口 薫子，
小川 貴史，小林 直樹，小笠原正浩，
木山 善雄，比嘉 敏夫，笠井 正晴

移植後長期の自己免疫異常と皮膚硬化型 GVHD を呈したリンパ芽球性リンパ腫の
一例

札幌北榆病院 内科 山口 薫子，近藤 洋子，小川 貴史，
小林 直樹，小笠原正浩，木山 善雄，
直原 徹，比嘉 敏夫，笠井 正晴

F C Mを用いた3カラー細胞内染色の有用性

札幌北榆病院 検査科 佐藤 壯，横田 亘弘，三浦 玲子，
此枝 義記
札幌北榆病院 内科 小笠原正浩，比嘉 敏夫，笠井 正晴

・保険診療にかかわる学術講演とレセプト検討会（平成 11 年 10 月 14 日 = 札幌）

〔講演〕拡大されてきた腹腔鏡下手術 - その適応範囲と限界 -

札幌北榆病院 外科 川村 明夫

・後志病院薬剤師会学術講演会（平成 11 年 10 月 19 日 = 小樽）

〔講演〕造血幹細胞移植の話題

札幌北榆病院 内科 笠井 正晴

・第 19 回日本アフェレシス学会北海道地方会（平成 11 年 10 月 23 日 = 札幌）

LCAP による寛解導入が困難であった潰瘍性大腸炎の 1 例

札幌北榆病院 外科 堀江 卓，有倉 潤，村井 紀元，
海津 貴史，内田 泰至，飯田 潤一，
増子 佳弘，田中三津子，玉置 透，
目黒 順一，久木田和丘，米川 元樹，
川村 明夫

札幌北榆病院 消化器科 斎藤 雅雄

白血球除去療法（LCAP）が奏功したと思われる慢性関節リウマチ（RA）に合併し

た腸管アミロイドーシスの一例

札幌北榆病院 消化器科 大石 正枝, 横山 朗子, 依田 有生,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
札幌北榆病院 外科 玉置 透, 米川 元樹, 川村 明夫

化学療法後, 冷却濾過法により寛解に入った過粘稠度症候群, 腎不全骨髄腫症例

札幌北榆病院 内科 加藤菜穂子, 近藤 洋子, 山口 薫子,
小川 貴史, 小林 直樹, 小笠原正浩,
木山 善雄, 直原 徹, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第8回北海道透析骨関節障害談話会(平成11年10月30日=札幌)

腎性上皮小体機能亢進症例における異所性上皮小体とその手術法について

札幌北榆病院 外科 堀江 卓, 久木田和丘, 目黒 順一,
内田 泰至, 飯田 潤一, 有倉 潤,
村井 紀元, 増子 佳弘, 海津 貴史,
田中三津子, 玉置 透, 米川 元樹,
川村 明夫

・第11回北海道腎移植談話会(平成11年11月6日=札幌)

生体腎移植後のCMV脳感染症の一例

札幌北榆病院 外科 増子 佳弘, 玉置 透, 田中三津子,
有倉 潤, 飯田 潤一, 村井 紀元,
内田 泰至, 海津 貴史, 堀江 卓,
久木田和丘, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

当院における糖尿病性腎不全の現況

札幌北榆病院 外科 田中三津子, 玉置 透, 久木田和丘,
川村 明夫

ラット腎再灌流傷害における選択的Heme oxygenase-1阻害剤の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 海津 貴史, 玉置 透, 此枝 義

記,

内田 泰至, 田中三津子, 川村 明夫

腎移植患者の指導・教育の充実をめざして

札幌北榆病院 6病棟 塩田 純子, 川島有美子, 内山しずか,
宮崎 稚子, 疍崎 令恵, 鈴木 雅永,
安達 るり, 栗坪 睦子

腎移植後の心理的变化について

札幌北榆病院 療養情報センター 星 奈美恵

・第213回日本内科学会北海道地方会(平成11年11月6日=札幌)

同種骨髄移植後に両側腎腫瘍で再発したALL(L1)の1例

札幌北榆病院 内科 加藤菜穂子, 山口 薫子, 小川 貴史,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
直原 徹, 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第56回北海道透析療法学会(平成11年11月7日=札幌)

〔シンポジウム〕腎移植の成績と周術期の諸問題

札幌北榆病院 外科 玉置 透

透析導入前にみられた大腸広汎粘膜下血腫の一例

札幌北榆病院 外科 有倉 潤, 久木田和丘, 村井 紀元,
海津 貴史, 飯田 潤一, 内田 泰至,
増子 佳弘, 堀江 卓, 田中三津子,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

シャントトラブルによる手術患者の不安

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 伊藤 薫, 佐藤 篤子,
見鳥ゆきえ,
中山 昌, 阿部 博, 久木田和丘

・第3回北海道緩和医療研究会(平成11年11月20日=札幌)

〔シンポジウム〕血液疾患とインフォームド・コンセント

札幌北榆病院 内科 直原 徹

- ・ じん肺患者交流集会（平成 11 年 11 月 27 日 = 札幌）

〔講演〕じん肺症について

札幌北榆病院 呼吸器科 本田哲史

- ・ 第 5 回北海道レジデントカンファレンス（平成 11 年 11 月 27 日 = 札幌）

同種骨髄移植後，胃粘膜下に myeloblastoma を形成し，再発した急性骨髄性白血病の一例

札幌北榆病院 消化器科 横山 朗子，大石 正枝，依田 有生，
川村 直之，大泉 弘子，斎藤 雅雄

札幌北榆病院 内科 山口 薫子，小川 貴史，比嘉 敏夫，
笠井 正晴

- ・ 日本医科器械学会学術講演会「機器と感染」（平成 11 年 12 月 3 日 = 札幌）

〔指定講演〕人工臓器治療センターにおける肝炎ウイルス感染の予防と現状

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 阿部 博

院内講演会報告

第7回北榆セミナー（平成11年10月1日）（札幌北榆病院・ファイザー製薬（株） 共催）

特別講演1「GVHDからウイルスまで」

兵庫医科大学 第2内科 講師 武元 良整

特別講演2「ミニ移植と同種細胞療法」

国立がんセンター中央病院 内科医長 峯石 真

各部門報告

外科

当院外科は2000年1月で満15才になりました。この間多くの出来事がありましたが、ほぼ順調に発展してきたといえそうです。1996年から北里大学外科、1998年から昭和大学外科より、それぞれ研修医を受け入れ、臨床および研究に頑張ってもらっています。外科の陣容は、川村理事長以下総勢13名にもなっています。もちろん北大第一外科からもほぼ毎年のように交代の若手のドクターが来て頑張っていますし、旭川医大第二外科からも2年交代でのローテーションがあります。外科学会、消化器外科学会、透析医学会等の研修指定施設として認定を受けており、若手ドクターの励みにもなっています。スタッフの充実に合わせて、手術件数、内容共に発展しており、1999年は全手術件数が878例ですが、全麻手術は483例に達しました。当科の症例の特徴は、胃癌や大腸癌（直腸癌も含む）が多く、食道癌、膵、胆道系の癌等も毎年数例ずつあり、各種癌の手術例は、研修医にとっても大変バラエティーに富み、勉強になっています。肝癌も10数例あり、超音波メスやアルゴンビームコアギュレーター（ABC）等の先進的機器も使用しています。一方、胆石症も多く、腹腔鏡手術も数多く行われ、毎年100～110例の症例を数えます。また、当科のもう一つの特徴として、透析関連の手術が大変多いことが挙げられます。内シャントはもちろん、人工血管移植等の手術も多く、200例前後の症例を数えます。腎移植は毎年数例施行されており、この2年間はドナーの腎摘を内視鏡補助下に行うようになり、ドナーの負担を大幅に減らしました。

学会活動も精力的に行われており、学会発表は1999年では、国際学会2件、全国学会31件、地方会24件でした。論文の執筆も盛んで、邦文24件、英文2件が出版されました。さらに、田中三津子先生は、当院研究所で行った実験の成果から、北海道大学より学位を授与されました。安原満夫先生（現 標茶町立病院）も、近く論文審査が行われる予定で、続々と医学博士が誕生しそうです。

当院のモットーの一つは、「良く学び良く遊べ」です。勉強したあとは、種々のイベントが待っています。新人の歓送迎会、夏の海水浴や屋上でのバーベキュー大会、動物慰霊祭後の納会や何回もある忘年会、12月末には餅つき大会もあります。個人については夏休みもとれます。小旅行でエネルギーを蓄える先生方も多いようです。

今年も1月から全麻件数が非常に多く、このままのペースでゆけば550例にせまるかもしれません。ますます忙しくなり大変ではありますが、老若男女、力を合わせて患者さんのためになる、合併症のない手術を心がけたいと思います。

（副院長 外科 目黒順一）

血液内科

血液疾患の治療は白血病、骨髄異形成症候群、リンパ腫、骨髄腫、再生不良性貧血など多岐にわたり、化学療法を行ったり移植医療を行っている。診療スタッフはレジデントを入れて9名で、グループ制で、3グループ構成で各グループが25~30名の血液疾患患者をかかえており、常時移植患者も5~6名はかかえており、血液病床は80床を越える。造血幹細胞移植数は年間35~40例になる。造血細胞移植センターには、無菌室がClass 100 4室、Class 1,000 7室、Class 10,000 10室の計21室を装備し、移植のみならず、好中球減少状態にある患者の感染リスクを減らし、より安全な移植や化学療法を行っている。全国の共同研究施設としてJALSG (Japan Adult Leukemia Study Group)、LSG (Lymphoma Study Group)、非血縁者間骨髄移植の各グループに参加しており、血液疾患治療を積極的に行っている。日常診療は多忙な中にも活気にあふれ、皆一生懸命働いている。多忙な中、全国学会や地方会の発表も多く、年最低4~5回は発表を行っている。血液の病理組織診断や組織培養、遺伝子解析を行っており、併設している人工臓器・移植・遺伝子治療研究所ではP2レベルの実験室を有し、遺伝子導入実験や遺伝子解析を行っている。幹細胞マーカーや移植時の移植片対宿主病の研究も行い、臨床と研究を併せ行っている。本年度の学会活動(筆頭者)は国際学会1、全国学会18、地方会17、論文は邦文6であった。日本血液学会、日本輸血学会の認定施設となっており、血液後期レジデント制(卒後3~5年)を採用し、全国公募も行っている。

(副院長 内科 笠井正晴)

消化器科

消化器科には現在6名の常勤医がおり、日夜診療に励んでいる。当院は日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会の指導認定施設に指定されており、若干の研修医の指導にも力を入れている。主な業務は内視鏡機器を使った診断、治療であり、最近内視鏡室および機器の充実と、内視鏡室スタッフの力量をあわせ、殆どの状況に対応できるようになった。1999年度実績として、胃内視鏡検査3000例、大腸内視鏡検査1700例、ERCP200例、腹部超音波検査1500例あり、これにEVL、EIS、EMR (polypectomy)、EST、PEIT、PTCD、Angiography等を積極的に行っている。また、学会活動も盛んで、ここ1年で日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会を中心として、全国大会で11回、地方会で9回報告している。現在治療として力を入れているものは、重症潰瘍性大腸炎、クローン病に対する白血球除去療法(LCAP)で、全道より患者さんの紹介があり、確実な成果を挙げている。また、Helicobacter pylori感染の診断及び除菌療法も積極的に行っている。当科は若年の医師も多く、厳しい中で和気あいあいの雰囲気で行っている。

(消化器科部長 斎藤雅雄)

/

呼吸器科

平成 11 年 1 月に新たに開設された呼吸器科は医師 1 名体制で午前外来を主に診療を開始しました。午後の「禁煙外来」は完全予約制で他の病院では類を見ないニコチン代償療法で禁断症状軽減する治療を行っています、また日本禁煙推進医師歯科医師連盟の会員として「世界禁煙デー」での電話相談等の活動も行っていきます。

呼吸器科の検査としては一般的なレントゲン検査、呼吸機能検査の他に放射性同位元素を用いた肺血流シンチグラム、気管支内視鏡検査はもとより、肺 CT 検査は全国的にも高い評価を受ける画像診断ができます。胸腔鏡は胸水疾患の診断ばかりではなく、自然気胸の内視鏡治療は北海道のセンターとして認められています。

気管支喘息の治療にはピークフローメーターを用いたステロイドの吸入療法を取り入れています。また肺結核の後遺症や慢性肺気腫その他の慢性呼吸不全の患者さんに対して在宅酸素療法も始めました。死亡率 1 位の肺癌に対しては胸腔鏡手術から開胸手術・化学療法・放射線療法の集学的治療が可能です。

学会活動としては日本気胸学会理事、日本内視鏡外科学会評議員、日本内視鏡外科学会雑誌編集幹事、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会指導医、日本気管支学会・気管支鏡指導医、北海道内視鏡外科研究会世話人をしており、全国学会総会で口演 2 回、横浜呼吸器談話会の特別講演の他札幌市職員共済組合の「健康講座」の講師、札幌薬剤師会の講演も行った。

外来診療では職業病であるじん肺に力を注いできた甲斐があり「じん肺患者交友会」が組織され当院で患者・家族の交流会が開催され、他院に通院している患者さん達も多数参加された。また再興感染症である肺結核の早期発見と院内感染の防止に努めております。入院診療においては血液内科・消化器科の先生のみならず、手術時には外科・麻酔科の先生方のご支援いただきこの紙面を借りてお礼申し上げます。

(呼吸器科部長 本田 哲史)

整形外科

当院の特徴である透析患者の骨関節・神経障害、膠原病・血液疾患の治療に伴う骨壊死、種々の原疾患による病的骨折、慢性腎不全や動脈硬化、糖尿病からくる潰瘍・壊死に対しては、その骨の脆弱性、免疫力の低下、易感染性等に影響される術後成績にも落胆することなく、辛抱強く治療に専心しております。

近年、同種血輸血を回避して、HIV 感染、輸血後肝炎、輸血後 GVHD 等の副作用を防止するため、自己血輸血が種々の方法で行われています。当院整形外科では、主に股関節の手

術に対して自己血貯血を行っています。平成 11 年の 1 年間では、人工関節置換術 12 人 14 股のうち 2 人 3 股に、また臼蓋回転骨切り術 8 人 10 股、骨盤骨切り術 1 人 1 股の計 11 人 14 股に自己血貯血を用いて手術を行いました。自己血貯血は 800cc ~ 1400cc、平均 1127cc であり、術後は同種輸血を行わずに合併症もなく経過しています。しかし、高齢者、著しい貧血、強い疼痛で早期の手術を希望される人工関節置換術には同種血輸血で対応しています。今後どれだけ自己血輸血例の割合を増やしていけるかが、我々の課題です。

(整形外科部長 東 輝彦)

麻酔科

平成 11 年の手術件数は例年とほぼ同様で、麻酔科管理症例は 623 例(外科 454 例・整形外科 134 例・呼吸器科 17 例・血液内科 18 例)でした。そのうち維持透析患者は、79 例(外科 57 例・整形外科 22 例)で、また呼吸器科が新設されたので呼吸器関連の手術件数が若干増加しました。維持透析患者では繊細な体内水分管理が要求され、また呼吸器科の手術では分離肺換気の手技が常時要求され、麻酔の基本の一つである「呼吸・循環の管理」の面から麻酔科に対する要求が高まっています。

当院では、平成 11 年 4 月より麻酔科指導医のパートタイム 2 名が新規に採用され、常勤 1 名・パートタイム 2 名の体制となり、常時 2 名の麻酔科医が勤務している状態となりました。これまでは外科からの研修医で全身麻酔を行っていましたが、麻酔科専門医がほぼ全ての全身麻酔症例を管理出来るようになりました。

「安全な麻酔」とは?・・・麻酔科管理麻酔時に患者さんにたいし麻酔科医が行っていることは、1) 痛みを取る、2) 意識を消失させる、3) 有害反射を予防する、4) 呼吸・循環を安定させる、5) 患者の安全を確保するの 5 項目に集約されます。「麻酔」と聞くととかく「痛みを取る」ことにばかり目が行きがちですが、「患者の安全を確保する」ことが最も重要です。麻酔科が開設される前は、局所麻酔・腰椎麻酔・全身麻酔等に麻酔方法を分けて考える傾向がありましたが、これでは、痛みを取る方法にのみ関心が行って、患者の安全確保の考え方が不十分となっておりました。現在、実際の麻酔では、バランス麻酔の考え方が広く認められてきており、腰椎麻酔等の単一の方法のみで行なうので無く、さまざまな方法・医薬品等を併用し患者の安全確保を計っております。

(麻酔科医長 中尾康夫)

人工臓器治療センター (AOC)

AOC は ICU では急性血液浄化を、AOC 東では入院透析を、AOC 西では外来透析を中心に業務が行われている。また非急性のアフェレーシスも AOC 西で施行されている。現在透析装置は計 84 台が稼働しており、平成 11 年末の総血液透析患者数は 263 名、腹膜透析 (CAPD)

は2例であった。アフエレーシスは白血球除去（LCAP）405件、冷却濾過（CRYO）42例、その他末梢血幹細胞採取（PBSCC）54件、LDLアフエレーシス8件、エンドトキシン吸着19件、腹水処理22件にのぼっている。LCAPは比較的新しい治療法として潰瘍性大腸炎に応用され、有効な成績を当院でも発表している。

血液浄化に関わる学会発表は日本人工臓器学会、日本アフエレーシス学会、日本医工学治療学会、日本透析医学会はじめ、急性血液浄化学会、急性肝不全治療研究会、ブラッドアクセス研究会、ブラッドアクセスインターベンション治療研究会、腎不全外科研究会のほか、多くの会で担当医師の発表が行われた。臨床工学技士、看護、ケースワーカー部門でも、日本透析医学会、日本医工学治療学会、日本医科器械学会などで発表が行われている。その他に北海道の地方会でも積極的に発表がなされた。

血液透析装置ではヘマトクリットを経時的に測定することにより、循環ボリュームの経時的観察が可能となる装置が普及しつつあるが、いわゆる透析困難症といわれる症例への応用が期待される。当院では内シャント狭窄に対してバルーンによる内シャント血管の拡張術を取り入れてきたが、その有効開存が数ヶ月しかないことが判明した。このことから拡張術後の血管内照射を始めたが、その後頻回の拡張術が不要となってきた。本邦では内シャントのこのような報告はみられず、今後成績を発表する予定である。血液透析のブラッドアクセスは現在針穿刺によるものが主流であるが、川村理事長発案による人工血管を用いた非穿刺型のブラッドアクセスが特許を獲得され、今後の臨床応用に向け研究が進められている。在宅加療が勧められている現在、自己透析あるいは在宅透析に向けての光明になると思われる。

（人工臓器治療センター長 久木田和丘）

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

平成8年に開設された本研究所も4年目を迎えることになりました。平成11年度の研究業績として、遺伝子研究室と動物実験室から併せて国際学会2題、全国学会15題の発表、邦文論文3題と英文論文5題が報告されています。

昨年度の研究テーマは、遺伝子研究室から多剤耐性遺伝子の造血幹細胞への導入、アンチセンスDNAによる白血病細胞増殖抑制、マイクロサテライトマーカを用いた造血幹細胞移植後のキメリズムの解析などの他にも厚生省骨髄移植班会議のテーマとして末梢血幹細胞におけるTリンパ球サブセットの解析などに鋭意取り組んでいます。今後はさらに癌免疫遺伝子治療や進行性腎不全に対する遺伝子治療に向けての基礎研究を行う予定です。また、動物実験室からは、ビーグルイヌを用いた新しいブラッドアクセスの実験研究、ラット肝腎、小腸などの虚血再灌流傷害モデルを作成して、glutamineなどのアミノ酸、nitric oxide donorなどの血管作動物質やhemin、protoporphyrinなどのヘムタンパク質の保護効果について検討してきました。

現在取り組んでいる研究テーマは、研究所の名前そのものの人工臓器と移植と遺伝子治療です。臨床応用に直結する研究課題を追求することが、われわれの研究所の目的であり、存在理由にもなります。今後とも一層のご支援をお願い致します。

(人工臓器・移植・遺伝子治療研究所副所長 玉置 透)

論文

邦文

平成11年

免疫疾患のアフェレシス療法．米川元樹，川村明夫，久木田和丘（札幌北榆病院・外科），齋藤雅雄（札幌北榆病院・消化器科），笠井正晴（札幌北榆病院・内科）．日本アフェレシス学会雑誌 18(1)：113-116，1999

関口定美先生の御逝去を悼んで．川村明夫（札幌北榆病院）．日本アフェレシス学会雑誌 18(2)：167，1999

EDA(+)フィブロネクチンの選択的吸着材の開発．米川元樹，田中三津子，久木田和丘，目黒順一，玉置 透，川村明夫，此枝義記（人工臓器・移植・遺伝子治療研究所），坂下栄治（大塚製薬工場）．人工臓器 28(1)：118-122，1999

ブラッドアクセスインターベンション治療における血管内超音波エコー法の応用．久木田和丘，川村明夫，米川元樹，花本尊之，小山内 誠，花田裕之，内田泰至，鹿取正道，増子佳弘，安原満夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一（札幌北榆病院・外科）．人工臓器 28(1)：145-147，1999

高吸収性ポリマーを用いた腸管内水分吸収の基礎的検討．小山内 誠，米川元樹，川村明夫，田中三津子，此枝義記，久木田和丘，目黒順一，玉置 透（人工臓器・移植・遺伝子治療研究所）．人工臓器 28(1)：246-249，1999

人工血管血清腫に対しピオポンドィが著効した2例．小山内 誠，久木田和丘，花本尊之，内田泰至，花田裕之，鹿取正道，増子佳弘，安原満夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．日本透析医学会雑誌 32(7)：1085-1089，1999

/

腎不全を併発し悪性腫瘍による高Ca血症を呈した4症例に行った低Ca透析．増子佳弘，久木田和丘，花本尊之，小山内 誠，内田泰至，鹿取正道，花田裕之，安原満夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．日本透析医学会雑誌 32(9)：1255-1258，1999

Cytapheresis（細胞吸着）．米川元樹，川村明夫，久木田和丘（札幌北榆病院・外科）．日本透析医学会雑誌 32(11)：1365-1366，1999

モルモット - ラット異種肝移植における拒絶反応の機序：異種肝移植モデルの作製と抗補体物質 Perfluorochemical（FC43）の効果．田中三津子（札幌北榆病院・外科，北大・第一病理）．北海道医学雑誌 74(6)：441-455，1999

血液浄化療法による重症肝不全の治療．川村明夫（札幌北榆病院・外科）．Frontiers in Gastroenterology 4(4)：401-408，1999

S L E 急性増悪．川村明夫（札幌北榆病院・外科）．救急医学 23(11)：1633-1637，1999

血漿交換．米川元樹（札幌北榆病院・外科）．輸血ハンドブック，関口定美 編，医学書院，東京，1999，p.121-142

アフェレシス治療，血漿分離膜，血漿分画膜，血液吸着カラム，血漿吸着カラム．米川元樹（札幌北榆病院・外科）．血液浄化療法辞典，飯田喜俊，二瓶宏，秋澤忠男 編，メディカル・サイエンスインターナショナル，東京，1999，p.61-66

吸着型血液浄化における医工学的効率と臨床的效果の評価．久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．クリニカルエンジニアリング 10(4)：353-358，1999

標準的血漿交換，血漿冷却濾過．川村明夫（札幌北榆病院・外科）．实用血液浄化療法 - チーム医療として - ，クリニカルエンジニアリング別冊，阿岸鉄三 編，秀潤社，東京，1999，p.72-76

細胞吸着．米川元樹（札幌北榆病院・外科）．实用血液浄化療法 - チーム医療として - ，クリニカルエンジニアリング別冊，阿岸鉄三 編，秀潤社，東京，1999，p.87-90

多発性骨髄腫．笠井正晴（札幌北榆病院・内科）．实用血液浄化療法 - チーム医療として - ，クリニカルエンジニアリング別冊，阿岸鉄三 編，秀潤社，東京，1999，p.123-125

血液凝固因子抗体症．小林直樹（札幌北榆病院・内科）．实用血液浄化療法 - チーム医療として - ，クリニカルエンジニアリング別冊，阿岸鉄三 編，秀潤社，東京，1999，p.138-140

維持用ブラッドアクセス．久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．实用血液浄化療法 - チーム医療として - ，クリニカルエンジニアリング別冊，阿岸鉄三 編，秀潤社，東京，1999，p.214-218

体外免疫調節機器．米川元樹（札幌北榆病院・外科）．組織培養工学 25(1): 44-47, 1999

造血幹細胞移植療法の実際 - 無菌室の中で何が行われているのか．小川貴史，笠井正晴（札幌北榆病院・内科）．内科 84(3): 499-502, 1999

新3剤併用療法1週間法と2週間法の除菌効果の比較．中川 学，大石正枝，依田有生，川村直之，大泉弘子，斎藤雅雄（札幌北榆病院・消化器科），中川宗一（稚内市立病院・内科）．日本臨床 57(1): 144-147, 1999

緊急透析用バルーン付きダブルルーメンカテーテルのその改良．米川元樹，久木田和丘，花本尊之，小山内 誠，花田裕之，内田泰至，鹿取正道，増子佳弘，安原満夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．集中治療 22(別冊): s55, 1999

血液透析患者に合併した褐色細胞腫摘出術の1例．中尾康夫（札幌北榆病院・麻酔科），久木田和丘，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科）．腎と透析 別冊，腎不全外科'99，p.75-77，1999

慢性腎不全における上部消化管出血症例の検討．久木田和丘，小山内 誠，内藤昌明，鹿取正道，蒲池浩文，安原満夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹，川村明夫（札幌北榆病院・外科），大泉弘子，斎藤雅雄（札幌北榆病院・消化器科）．腎と透析 別冊，腎不全外科'99，p.94-96，1999

血液疾患における輸血の問題点．笠井正晴（札幌北榆病院・内科）．第7回赤十字血液シンポジウム 論文集，日本赤十字社，p.53-58，1999

本邦における血縁者間同種末梢血幹細胞移植の全国調査：現状と問題点．原田実根，竹中克斗，品川克至（岡山大学・2内），中尾真二（金沢大・3内），青墳信行（千葉市立病院・内科），沢田 仁（社会保険小倉記念病院・内科），笠井正晴（札幌北榆病院・内科），井関徹（東大医科学研究所附属病院・内科），村田 誠，小寺良尚（名古屋第一赤十字病院・内科），岡本真一郎（慶大・血液内科），兵藤英出夫（広島大原爆放射線医学研究所）．臨床血液 40(11)：1160-1167，1999

札幌北榆病院における腹腔鏡下手術．川村明夫，堀江 卓，目黒順一（札幌北榆病院・外科）．札幌医通信 No.387，p.12-13，1999

再生不良性貧血とEPO．比嘉敏夫（札幌北榆病院・内科）．札幌医通信増刊 No.188，第24回札幌市医師会医学会誌，p.4-6，1999

透析患者における鉄剤静注時の鉄飽和度の検討．久木田和丘，川村明夫，田中三津子，玉置 透，目黒順一，米川元樹（札幌北榆病院・外科）．札幌医通信増刊 No.188，第24回札幌市医師会医学会誌，p.117-118，1999

造血器悪性腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の検討．小笠原正浩，山口薫子，小川貴史，小林直樹，木山善雄，直原 徹，比嘉敏夫，笠井正晴（札幌北榆病院・内科）．札幌医通信増刊 No.188，第 24 回札幌市医師会医学会誌，p.147-148，1999

臓器保存．玉置 透（人工臓器・移植・遺伝子治療研究所）．北海道医報 No.936，p.12-16，1999

持続陽圧換気療法の代替治療：外科治療．米川元樹 訳（札幌北榆病院・外科）．レスピラトリ・ケア・ニュース 6(2)：89-102，1999

これからの日本の医療政策と病院と取るべき方策．川村明夫（札幌北榆病院）．患者満足 39(1)：135-137，39(2)：114-116，1999

腹膜炎と原因疾患．米川元樹（札幌北榆病院）．暮らしと健康の月刊誌ケア 1999 年 10 月号，p.48-53.

透析患者の手術と周術期管理 - 消化器手術の予後改善が課題 - ．久木田和丘（札幌北榆病院・人工臓器治療センター）．「らうんじ」No.6，日経メディカル開発，p6-7，1999

〔座談会〕臨床の現状を踏まえ将来の H.pylori 除菌治療の方向を考える．藤岡利生（大分医科大学・2 内），杉山敏郎（北海道大学・3 内），有田 毅（有田胃腸病院），斎藤雅雄（札幌北榆病院・消化器科）．日経メディカル 1999 年 8 月 10 日号，p2-7.

/

英文

1999 年

New Technique of leukocytapheresis by the use of nonwoven polyester fiber filter for inflammatory bowel disease. Kawamura A, Yonekawa M, Horie T, Tamaki T, Kukita K, Meguro J (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital), Saitoh M, Ohizumi H (Dept. of

Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital). Therapeutic Apheresis 3(4): 334-337, 1999

Changes of plasma fibronectin in patients treated with cryofiltration for an extended period. Yonekawa M, Kawamura A, Kukita K, Meguro J, Tanaka M, Tamaki T (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). Therapeutic Apheresis 3(4): 338-341, 1999

Impaired recoloration of a discordant liver xenograft in the guinea pig-to-rat combination. Tanaka M, Tamaki T, Konoeda Y, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi Y (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.), Ishikura H, Yoshiki T (Dept. of Pathology, Hokkaido Univ). Transplantation 68(2): 304-307, 1999

A novel monitoring of kidney allograft rejection with plasma EDA(+)fibronectin. Tanaka M, Tamaki T, Kawamura A, Yokota N, Hayashi T, Konoeda Y, Yonekawa M (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Sanzen N, Sekiguchi K (Osaka Medical Center and Research for Maternal and Child Health). Transplantation Proceedings 31: 310-311, 1999

Cytoprotective role of antioxidant stress protein induced by adenosine A1 receptor antagonist in rat heart ischemic injury. Katori M, Tamaki T, Tanaka M, Konoeda Y, Yokota N, Hayashi T, Uchida Y, Hui Y, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi Y, Kakita A (Kitasato Univ). Transplantation Proceedings 31: 1016-1017, 1999

/

Glutamine-induced heme oxygenase-1 protects intestines and hearts from warm ischemic injury. Tamaki T, Konoeda Y, Yasuhara M, Tanaka M, Yokota N, Hayashi T, Katori M, Uchida Y, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital). Transplantation Proceedings 31: 1018-1019, 1999

Nitric oxide donor induced upregulation of stress proteins in cold ischemic rat hearts. Katori M, Tamaki T, Tanaka M, Konoeda Y, Yokota N, Hayashi T, Uchida Y, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi Y, Kakita A (Kitasato Univ). Transplantation Proceedings 31: 1022-1023, 1999

Rapid induction of malignant tumors by chemical carcinogens in rats carrying the Grc. Natori T (PALM Institute), Konoeda T, Hayashi T, Tamaki T, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Katoh H, Hioki K, Nomura T (Central Institute for Experimental Animals), Kunz HW, Gill III TJ (Univ. of Pittsburgh School of Medicine). Transplantation Proceedings 31: 1621, 1999

Further accumulation of Cd in renal cellular membranes caused by administration of desferrioxamine to Cd-burdened rats. Sudo J, Terui J (Dept. of Clinical Pharmacology and Toxicology, Health Sciences Univ. of Hokkaido), Higa T (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital), Kukita K, Yonekawa M, Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital), Kon K, Kon T (Sapporo Kita Clinic). Clin Exp Nephrol 3:23-28, 1999

Comparison between CO₂ insufflation and abdominal wall lift in laparoscopic cholecystectomy. Kurauchi N, Yonekawa M, Kurokawa Y, Tamiya Y, Nakamura S, Nagai H, Obara Y, Terada H, Yamada H, Yamada Y, Nakamura H, Hashimoto D, Mori T, Yamakawa T, Hagiwara M, Ishihara H, Nishii H, Sekimoto M, Urushihara T, Ota J, Taniguchi Y, Yamaguchi H, Kitano S (The Japanese Association of Abdominal Wall Lifting for Laparoscopic Surgery). Surg Endosc 13: 705-709, 1999

Hepatic veno-occlusive disease after stem cell transplantation in Japan. Oh H, Takahashi S, Sakamaki S, Kato S, Okamoto S, Hiraoka A, Kasai M, Maseki N, Dohy H, Kodera Y (Research Group for Stem Cell Transplantation). Bone Marrow Transplantation 24: 223-230, 1999

A clonal culture assay for human cord blood lymphohematopoietic progenitors. Yoshikawa Y, Ikebuchi K, Ohkawara J, Hirayama F, Yamaguchi M, Sato N, Mori KJ, Sekiguchi S (Hokkaido Red Cross Blood Center), Mori KJ (Faculty of Science, Niigata Univ), Kasai M (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital). *Human Immunology* 60, 75-82, 1999

A dose-finding study of lenograstim (Glycosylated rHuG-CSF) for peripheral blood stem cell mobilization during postoperative adjuvant chemotherapy in patients with breast cancer. Narabayashi M, Takeyama K, Fukutomi T, Tokuda Y, Tajima T, Okumura A, Chou T, Sano M, Makino H, Igarashi T, Sasaki Y, Imoto S, Ogura M, Morishima Y, Murai H, Okamoto S, Ikeda T, Kasai M, Yokozawa T, Tobinai K (The Lenograstim/Breast Cancer Study Group). *Jpn J Clin Oncol* 29(6): 285-290, 1999

Possible role of granulocyte colony-stimulating factor in increased serum soluble interleukin-2 receptor- α levels after allogeneic bone marrow transplantation. Kobayashi S, Imamura M, Hashino S, Noto S, Mori A, Tanaka J, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Naohara T, Kasai M (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital). *Leukemia and Lymphoma* 33: 559-566, 1999

The role of accessory cells in allogeneic peripheral blood stem cell transplantation. Tanaka J, Asaka M (Third Dept. of Int. Med., Hokkaido Univ.), Imamura M (Dept. of Gerontology and Oncology, Hokkaido Univ.), Kasai M (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital), Torok-Storb B (Fred Hutchinson Cancer Research Center). *International Journal of Hematology* 69: 70-74, 1999

司会・座長

日本医工学治療学会第12回学術大会（平成11年2月6,7日）

一般演題「医工学治療・工夫」 川村 明夫

一般演題「血液浄化（3）」 米川 元樹

第24回札幌市医師会医学会（平成11年2月21日）

一般演題「内分泌」 米川 元樹

第32回日本腎移植臨床研究会（平成11年3月3~5日）

一般演題「免疫抑制療法（7）」 玉置 透

第3回北海道臓器移植フォーラム（平成11年4月10日）

研究部門 玉置 透

第1回血友病セミナー（平成11年5月7日）

演題「私と血液学」 笠井 正晴

第8回腎不全外科研究会（平成11年5月29日）

一般演題「血管,アクセス」 久木田和丘

第10回北海道腎移植談話会（平成11年6月5日）

Session 1 田中三津子

札幌市外科医会・ノバルティス ファーマ（株）共催 学術講演会（平成11年6月5日）

特別講演「心臓移植再開と今後の検討」 川村 明夫

第19回日本アフェレシス学会学術大会（平成11年6月10,11日）

ワークショップ3「アフェレシス治療の臨床成果」 川村 明夫

第10回北海道造血細胞移植研究会（平成11年6月12日）

一般演題 木山 善雄

第44回日本透析医学会学術集会・総会（平成11年6月25~27日）

ポスターセッション「血液浄化/アフェレシス」 川村 明夫

ポスターセッション「技術/抗凝固,ブラッドアクセス」 久木田和丘

/

第 35 回日本移植学会総会（平成 11 年 9 月 16 , 17 日）

一般演題（口演）「免疫寛容 4 」 玉置 透

一般演題（口演）「免疫抑制 1 」 此枝 義記

日本医工学治療学会第 13 回学術大会（平成 11 年 9 月 17 ~ 19 日）

教育講演 2 「医工学治療と 2000 年問題」 米川 元樹

再生つばさの会第 3 回北海道医療講演会（平成 11 年 9 月 18 日）

医療講演 笠井 正晴

第 43 回日本輸血学会北海道支部例会（平成 11 年 10 月 2 日）

一般演題 直原 徹

第 41 回日本臨床血液学会北海道地方会（平成 11 年 10 月 9 日）

一般演題 木山 善雄

第 37 回日本癌治療学会総会（平成 11 年 10 月 12 ~ 14 日）

ポスター「化学療法(28)：高用量 1 」 木山 善雄

第 41 回日本臨床血液学会総会（平成 11 年 10 月 13 ~ 15 日）

ポスター「造血細胞移植-2」 笠井 正晴

第 10 回日本急性血液浄化学会（平成 11 年 10 月 15 , 16 日）

一般演題「血液浄化器」 米川 元樹

第 37 回日本人工臓器学会大会（平成 11 年 10 月 15 , 16 日）

ワークショップ 2 「Material からみた Blood Access の新展開」 川村 明

夫

第 19 回日本アフェレシス学会北海道地方会（平成 11 年 10 月 23 日）

一般演題 目黒 順一

第 56 回北海道透析療法学会（平成 11 年 11 月 7 日）

一般演題 久木田和丘

日本医科器械学会学術講演会「機器と感染」(平成 11 年 12 月 3 日)

教育講演「肉芽腫形成と治癒」 川村 明夫

第 22 回日本造血細胞移植学会総会(平成 11 年 12 月 16, 17 日)

シンポジウム:「骨髄移植関連 TMA」の全国アンケート調査 笠井 正晴

編集後記

1985年(昭和60年)1月15日札幌北榆病院開院以来今年で満15年が経過しました。病床数は222で変わりませんが、開院時診療科3、医師数5名であったのが、現在は診療科11、医師数35名、職員数339名、組織も個人病院から医療法人北榆会となり札幌北榆病院と人工臓器・移植・遺伝子治療研究所の2組織を併設するに至っております。この間、診療を行うための組織の求心力は学問との考えより、活発に国内外での学会活動や医師会への参加、協力を通してその成果を患者さんへ還元してまいりました。高度先進医療を行うにあたりまして開院当初より informed consent に基づく移植医療を他に先駆けて実践し、また患者さんのアメニティを配慮して個室も74室配備し二度にわたる増改築を行ってきました。その結果、病院機能評価機構の認定を早期に受けております。今後も医療構造改革、保険制度の変化等に病院側が対応できる組織力を維持発展すべく、「継続は力なり」を実践して地域医療にあたられていらっしゃる諸先生と連携し、医療にあたりたいと考えております。1999年度の活動の一端を本誌に記しました。

副院長 笠井正晴

札幌北榆病院会誌 第十三巻

JOURNAL OF SAPPORO HOKUYU HOSPITAL VOL.13

平成12年1月15日発行

Jan. 15. 2000

発行者 川村明夫

AKIO KAWAMURA

発行所 医療法人北榆会 札幌北榆病院

SAPPORO HOKUYU HOSPITAL

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条6丁目

HIGASHISAPPORO 6-6, SHIROISHI-KU, SAPPORO 003-0006

TEL. (011) 865-0111